おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ー病院に行くこと　就学後 編ー　　ＮＯ．６７

前回に引き続き、“病院に行くこと”について、今回は、就学後（学齢児）の診断や検査について話題にしていきます。今回も、ひとつの考え方として受け止めていただければと思います。まず前回の補足として、もし、就学前の支援が必要な子の保護者の方に「いつ頃までに専門機関（病院）を受診するのがいいですか？」と尋ねられたら、「学校に入る頃までに。就学先を決めていく時期のひとつの情報にするとよいのでは」とお返事することが多いと思います。もちろん、いろいろな状況を見ながら考えていきますが。

学校生活に入ると、子どもの姿の捉え方が、それまでの“発達”“育ち”を柱にした捉え方に、“学び”“上手に過ごす”といったスタンスが加わってきます。そして、年齢を重ねるに従い、その傾向は強くなっていきます。世界が広がり、いろいろな人達の中で過ごしていく場面作りが、先々につながっていくことを思えば、自然な流れだといえます。もちろん、子どもの“ことばの育ち”“身体の育ち”“手先の器用さ”“刺激の交通整理”“人との関わり”等、小さい頃から留意してきた“育ち”も見ていきたいところですが、子どもによっては、日常あまり強調されなくなってきます。

そんな日常を過ごしていく中で、子どもの得意分野、苦手な分野について、改めて整理したほうがよい節目がやってきます。上手く過ごせないことやできないことで、本人も周りの大人も壁にぶつかったとき、育ちの凸凹を診てもらう（受診歴があるのなら改めて診てもらう）ことで、仕切り直せることもあります。得意なことを伸ばし自信をつけていく方向性や、苦手なことを負担少なく底上げしていくための糸口探しに役立ちます。また、進級・進学について考えていくとき、本人の育ちの特徴を改めて整理することが、方向性を整理していく大きな情報になることもあります。

苦手な面や困っていることが見えにくい子は、周囲からの配慮が受けにくく、なぜ上手くいかないのか、自分自身でもわかりにくく、悩んでいることも少なくありません。「どうせできないし…」と、あきらめモードが続いてしまうこともあります。そんな時の受診が、何より、子どもにも親にも「努力不足なんかじゃない。頑張ってないわけじゃないよ」「上手く過ごせる方法を考えよう」と、“今”をポジティブに捉えるきっかけになれば、大きな意味を持ちます。受診の結果がその子の“人となり”を守ることもあります。

ある程度の年齢になれば、子どもによっては、「風邪でもないのになぜ病院に行くの？」と思い始めるかもしれません。説明の仕方はいろいろだと思いますが、本人の困っていることやモヤモヤした気持ちに応えていくきっかけにしていきたいものです。一度で解消するものではないですが、明日への安心につながる受診になれば、足を運ぶ意味も大きいと思います。

繰り返しになりますが、育ちに関する病院の受診は、誰かに行けと言われて行くものではありません。子どもへの手立てや考えを整理し、より前向きに過ごしてくための手段のひとつですが、日々共に過ごしている方達や相談先等と、一緒に考えていけるといいですね。

前回今回、ちょっとかたい話になってしまいました。頭の隅に置いておいていただいて、頭の真ん中は、12 月のイルミネーションで温かくしてください。　　（R3．１２）K